

編集後記：2年前より秋季大会シンポジウムの解説記事を担当しています。これまでに2012年度の「気象学が地域の未来にいかに関与できるか？」と2013年度「二酸化炭素研究の新展開」の記事の編集に携わりました。いずれも自分の専門とは異なるテーマでしたが、「天気」の幅広い読者を対象に書かれた記事ですので、専門知識の少ない私でも何とか担当することができました。

大会シンポジウムの講演を聴くと、各テーマの研究を最新の動向も含めて体系的に理解することができます。この内容を記事として残すことは、当日のシンポジウムに参加できなかった方にとって有用な資料となりますので、重要な任務として取り組んでいます。また、査読プロセスを通して、専門的な記述に関する補足なども加わりますので、シンポジウムに参加した方にも、改めて理解を深めるのに活用していただければと思います。

一方で、著者の方々には講演が一段落した後で、記事の執筆という、もう一仕事ををお願いすることになります。特に他分野や研究者以外の方々には、馴染みのない執筆要領に従って原稿を用意しなければなりません。これまでも、分量やフォーマットなどに関する改訂をお願いすることがありましたが、著者の方々には快くご協力をいただき、ありがとうございました。これらの点は、特に重要な規則を事前に確認することや、原稿のひな形を用意したりすることで、「天気」編集委員会でも改善を図っています。

今後も編集委員として、記事の読みやすさと作業の効率化を向上できるよう努めたいと思います。大会シンポジウムの記事に関して、読者や著者の立場からご意見がございましたら、お近くの編集委員にご相談ください。

(柳瀬 亘)